

Contents

- 特別企画
岸田文雄自民党政調改革
- 岸田文雄の地方行脚



岸田文雄の地方行脚

いま岸田文雄は、自民党政務調査会長として、宏池会会長として、そして総裁候補として、様々な地方から多くの講演依頼が来ています。国会での日程などを勘案し、岸田文雄はできるだけ地方を訪れ、現場の生の声を聞き、多くの意見を国政に反映すべく努力しています。



季刊「翔」七十七号 発行平成三十年十二月八日
自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室
〒730-0013 広島市中区八丁堀六一三 和光八丁堀ビル九階

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<http://www.kishida.gr.jp/>

ケータイ用サイトQRコード



岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、(株)日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後9期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降4年8ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米国大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。

平成29年自民党政務調査会長に就任。党の政策責任者として大きな期待と責任を担う。

岸田文雄フェイスブック

www.facebook.com/kishdafumio

日々の活動写真を中心に更新しています



特別企画

岸田文雄政調会長の
自民党政調改革

岸田文雄が2017年8月に自民党政務調査会長に就任し2年と半年が経とうとしています。この間、衆議院議員総選挙における政権公約作りを担い、数多くの重要法案を審議し、本予算や補正予算そして税制改正などを手がけてきました。岸田政調会長は党の政策の要として、また顔として、国会においても選挙においても党の内外、そして国の内外を問わず広く活躍してきました。

その中において、いま岸田文雄は歴史的な大改革を成し遂げようとしています。これまでの政調会長が行えなかった政調改革です。

これは今年7月に岸田文雄政調会長が取りまとめた「政調会のあり方等に関する改革について」を基本とし、そして10月に政調会長に再任されてからは岸田政調会長が自ら実行することになりました。そこには主に以下のような項目が挙げられました。

- ・政権公約の検証を行うための「公約・政策等評価会」の設置
- ・政調会をさらに部会中心の組織とするための機能強化
- ・政調会内に130以上ある機関のスリム化
- ・政策議論を目的とした党則79条機関の設置禁止
- ・政治家同士の議論活発化のために部会での副大臣や政務官の積極的関与

「国家ビジョン策定プロジェクトチーム」の設置
政調会のペーパーレス化

これらについて岸田政調会長は着実に成果を上げています。

例えばペーパーレス化は臨時国会の最初の政調審議会においてタブレットを導入し、当初戸惑っていた議員も今ではすっかりと日常の光景としてタブレットで審議を行っています。

また、政調内機関を3割減少させ、総裁直属の79条機関もいくつか安倍総理と減らすことに同意し、さらに部会長の適性期数の引き上げと、部会長代理・副部会長の部会出席の義務化など、今までの自民党にない大改革を断行してきました。

さらに岸田政調会長は提言以外の政調強化改革にも着手しています。

すでに熊本において第一回目を開催しました「地方政調会」を立ち上げました。これまで中央の自民党の党本部でしか行われなかった政調の議論を、その場を地方に移して、より地域に密着した、現場の生の声をダイレクトに政治に反映させることを目的としています。

また今年の予算編成においては、予算編成大綱を決定した後に政府より具体的な数字を出してもらい、それを担当の党部会で実質的な議論を経て、各省庁と財務省との大臣折衝などを行う

ような仕組みに変えました。これによりこれまでの政府主導の予算編成から、真の意味で政治主導の予算編成になり、同時に与党自民党として大きな役割と責任を担うことになりました。

どの改革もこれまでの自民党には無かった動きであり、岸田文雄が政調会長に就任してから動き出したものばかりです。これまでやれずれば政府主導で動いてきたと言われていた近年の政治において、「政府と与党は車の両輪である」という原点を見直す改革とも言えるでしょう。

またそこには岸田文雄の基本的な政治姿勢も垣間見れます。トップダウンで何でも物事を進めるのではなく、できるだけ多くの人に議論に参加することで

合意を図っていくボトムアップ型の政治も、部会機能の強化などから見て取れるでしょう。国民に直接選ばれている政治家が予算の生の数字に関与することで権力に対するチェックアンドバランスを確保することにも繋がっていますし、ペーパーレス化や肥大化する組織に一定のメスを入れて常に見直しが必要なら改善するなど持続可能性にも注力した改革にも手を付けています。

これまでのいわゆる「強」ではない、多様性を重視した広く開かれた政治姿勢と、そのための組織作りにより、いま岸田文雄は尽力しているわけです。

昨年まで外務大臣として日韓合意やオバマ米国大統領領土訪問などで大きな存在感を發揮してきた岸田文雄が、政

党の要である政策を取り仕切る政調会長として歴史的な大改革を行っています。

いま日本の前には様々な課題が山積しています。これを前にして政治の役割はますます大きなものになっています。その中において岸田文雄は政治の中心で八面六臂の活躍をしています。大きな結果を残しています。未来に繋がる取り組みを続けています。

岸田文雄は今後も様々な場面で政治の場でもそれ以外でも国の内外で活躍を期待され注目を集めることでしょう。



政調会長定例記者会見



熊本県、地方政調会熊本城視察



政調・文部科学部会



政調幹部・部会長会議



公約・政策等評価委員会



ペーパーレス化後の政調審議会



書類が山積みになっていた以前の政調審議会